

海外移住資料館だより

Japanese Overseas Migration Museum News No.36

2014
Winter

日本人の海外移住は100年以上の歴史があります。

JICA横浜・海外移住資料館では、海外へ移住し、それぞれの国や地域で新しい文明作りに参加してきた日本人移住者の歴史と、その子孫である日系人について広く理解を深めてもらうことを目的に、さまざまな資料を展示しています。

■発行元：JICA横浜 海外移住資料館

神奈川県横浜市中区新港2-3-1 JICA横浜2階

Tel:045-663-3257(代) URL:<http://www.jomm.jp/>

■編集発行人：JICA横浜 海外移住資料館 館長 小幡 俊弘

マンガ! Manga! Mangá! —日系人とマンガの世界—



©原秀則/小学館 スペリオールBC



©COMISION LIBRO CENTENARIO



©Mauricio de Sousa Produções Ltda.
©Tezuka Production



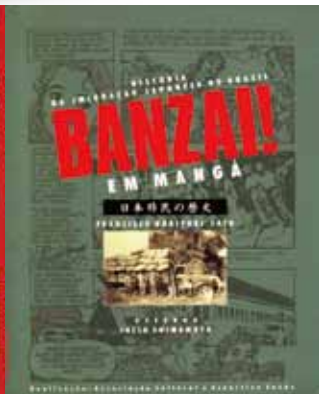
©村上もとか/集英社



©牛窪清四郎



©鍋田吉郎 藤原芳秀/小学館



©Francisco Noriyuki Sato



©Marc Bernabe/NORMA Editorial S.A.



©上野久 木ノ花さくや

特別展示

マンガ! Manga! Mangá!

— 日系人とマンガの世界 —

2014年12月13日(土)～2015年2月15日(日)

第二次世界大戦後の1950年代初めに、海外への移住が再びはじまると、家族で移住する人々も次第に増えていきました。日本では1952年に雑誌「少年」で連載が始まった「鉄腕アトム」が、63年に初めてテレビアニメ化され、大人気となります。50年代後半から60年代後半にかけて「少年マガジン」や「少女フレンド」の週刊マンガ誌が発刊されると、「少年サンデー」「少年チャンピオン」「少年ジャンプ」など次々と週刊誌が発行され、「巨人の星」や「あしたのジョー」などいわゆるスポ根(スポーツ根性)ものがテレビアニメで大ブレイク。テレビとのタイアップで発行部数を伸ばしていきます。

日本から遠く離れた南米に移住した子どもたちは、アニメを見るわけにはいきませんでした。日本人町に行くたびに買ってもらったマンガ雑誌は何よりの楽しみで身近な存在でした。

今や世界中で翻訳されている日本の“Manga”(※Mangáは、ポルトガル語)は、世界で通用することばになっています。ブームを支えているのは、日系人ではない人たちです。例えば、弁当の卵焼きひとつにまでこだわって描かれたひとコマから、彼らは日本の学園生活を想像します。そして魅力的なキャラクター設定やわくわくするストーリーのとりことなり、日本を「クール」な国だとあこがれを抱いているのです。

そんな、世界の共通語となった“Manga”と、日系人の関わりを、開催中の特別展示から、ご紹介しましょう。



日本のマンガが並んだ
アルゼンチン・ブエノスアイレスの
マンガ専門店(2014年)

日系人によるマンガ

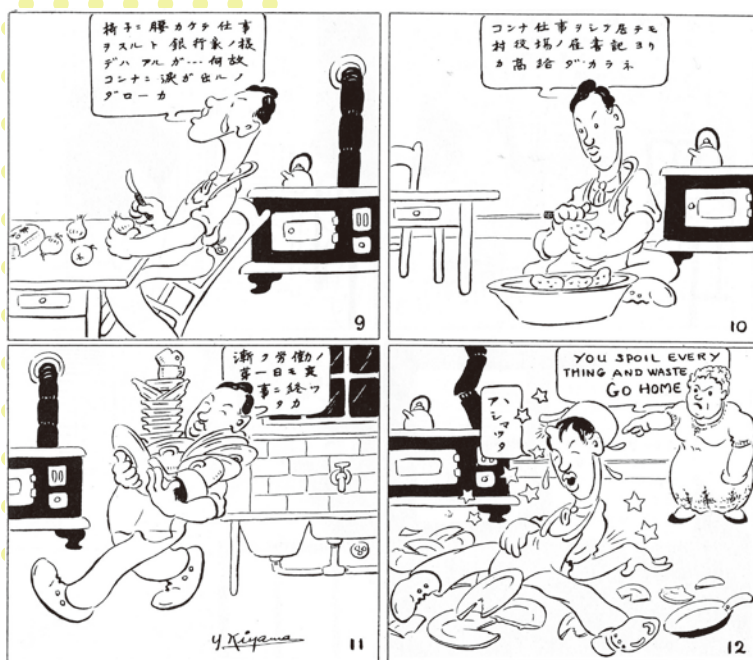
海外で日本人が描いたマンガで最も初期のものに1904年に絵画の勉強のためにアメリカに渡ったヘンリー・木山義喬が31年に出版した「漫画 四人書生」があります。生活習慣の違いに悪戦苦闘する日本人学生の姿を自身の経験を振り返りながらおもしろおかしく描きました。

60年代のブラジルの邦字紙「パウリスタ新聞」には、日系社会や日本政府の出来事や、ブラジルに溶け込んでいく移民の姿について、時に風刺を効かせて描いた「コロニア漫評」が連載され、移民たちの共感を得ていました。

80年代から90年代に活躍した日系ブラジル二世のクラウジオ・セト(「クリチーバの歴史」)や、同時期に活躍した日系アメリカ三世のスタン・サカイ(「ウサギ用心棒」)は、日系社会で日本のマンガを見て育った世代として、日本のマンガの特徴を受け継ぎ、独自の世界を表現したことで、それぞれの国で高い評価を得ています。



「漫画 四人書生」
著者:ヘンリー・木山義喬



日系人を描いたマンガ



©原秀則/小学館 スペリオールB C

海外の日系人を題材にし、日本で描かれたマンガも話題を呼んでいます。2012年から小学館発行のマンガ雑誌「ビッグコミックスペリオール」で連載された「バンクーバー朝日軍」は、第二次世界大戦前のカナダで活躍した伝説の日系人野球チーム「バンクーバー朝日」を描いた作品です。この野球チームの物語は、人気俳優陣を起用して日本で映画化され、今年12月から、「バンクーバーの朝日」として公開されます。

歴史に埋もれていた、知られざる日本人移民の生き生きとした姿を、マンガが現在に蘇らせたといえるでしょう。

カナダ野球の殿堂入りを果たした日系人チーム「バンクーバー朝日」

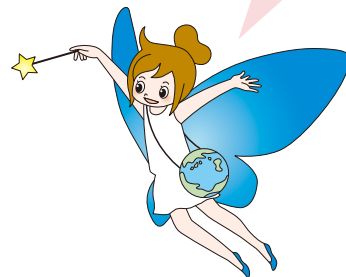
ちょうど100年前の1914年、カナダで日系二世を中心とした野球チームが誕生しました。その名は、「バンクーバー朝日」。

1900年代はじめて日系人に対する差別や反日デモが激しかったカナダで、白人選手に比べると小柄で打撃力も劣る日系人選手が、差別的なヤジや乱暴なプレーに対してもフェアプレー精神を貫き、ついにはリーグ優勝を果たします。やがて、敵対視していた白人たちからも支持されるようになり、多くのカナダ人を魅了するチームになったのです。しかし、1941年の太平洋戦争の勃発で、カナダの日系人は敵性外国人として全財産を没収され、カナダ各地の強制収容所に送り込まれます。朝日軍も解散せざるを得ませんでした。

終戦から58年後の2003年、「バンクーバー朝日」はカナダ野球に対する貢献が評価され、カナダ野球の殿堂入りを果たします。さらに、悲劇の解散から73年を経た今年10月、「朝日」の名前はバンクーバーの日系少年野球チーム「新朝日」として復活。記念試合には、元朝日軍メンバーのケイ上西さんが駆けつけました。※裏表紙「海外の邦字新聞より」をご覧ください。



バンクーバーと横浜は、2015年、姉妹都市提携50周年を迎えるのよ。かつて、たくさんの日本人移民が横浜港からカナダに向けて旅立ったの。



Hot Information

映画「バンクーバーの朝日」 2014年12月20日(土) 全国東宝系ロードショー

監督: 石井裕也 脚本: 奥寺佐渡子

出演:

妻夫木聡 亀梨和也 勝地涼 上地雄輔 池松壮亮
高畑充希 / 宮崎あおい 貴地谷しほり / ユースケ・サンタマリア
本上まなみ 田口トモロヲ 徳井優 大鷹明良 岩松了 大杉漣
鶴見辰吾 光石研 石田えり / 佐藤浩市



©2014「バンクーバーの朝日」製作委員会

移民史を描いたマンガ

20世紀後半に入ると各国の日系社会も、日本語が分かったり、日本移民の歴史を知っていたりする若い世代が少なくなっていました。南米への移住100周年を期に、日本人移住の歴史を次の世代に伝えようと、マンガによる移住史が各国で出版されました。

2008年、ブラジル日本人移住百周年記念事業の一環として、日本人移民の歴史を紹介するマンガ「BANZAI」がポルトガル語で発行され、メキシコでも08年、1897年に最初にメキシコへ移住した榎本植民団を題材とした「サムライたちのメキシコ」が日本語とスペイン語両語で出版されました。また、カナダでは「Nikkei Manga-gatari THE SWORD, THE MEDAL AND THE ROSARY(刀と勲章とロザリオ)」が2013年に英語で出版されています。



「漫画 メキシコ榎本殖民史
サムライたちのメキシコ」
編集：メキシコ榎本殖民史
漫画化プロジェクトチーム
京都精華大学事業推進室
原作：上野久
作画：木ノ花さくや



日系人の
子どもたちも

みんなマンガに夢中だった！

不思議だった擬音語

平野勇パウロ

(「ベンヴィンド・ブラジル街」編集長)



1980年代後半の子どもの頃、週末に家族でサンパウロの日本人町、リベルダーヂ東洋街へ買い物に行き、「週刊少年ジャンプ」を買ってもらうのが楽しみでした。本屋さんには、3カ月くらい遅れて届く週刊や月刊のマンガ雑誌や「小学一年生」などが置いてあって、少年ジャンプは1カ月分がひとまとめで売られていました。

当時好きだったのは「ドラゴンボール」や「キン肉マン」。日本語があまりわからなかったので、絵を見ながら内容を想像していました。ちょうど日本語学校に通い始めた頃で、習ったばかりのカタカナや平仮名を読む勉強にもなりました。不思議だったのは、雨や風の音を表す「ザーザー」や「ヒューヒュー」など。擬音語というものを知らなかったで、「ザーザー」というのが雨の音のだというイメージがまったくわからなかったんです。

平野勇パウロ 1979年、サンパウロ市生まれの日系三世。日本の「ブラジル人町」群馬県大泉町で日本語情報誌「ベンヴィンド*・ブラジル街」を2009年より発行。(※ポルトガル語でようこそという意味)

世界レベルの影響力持つ 日本のポップカルチャー

アンジェロ・イシ

武蔵大学教授(社会学部メディア社会学科)



僕はどちらかというと映画で日本語を勉強した人間なのですが、僕のまわりの日系人の若者は「少年マガジン」とか「少年ジャンプ」とか、少女マンガに夢中になっていましたね。サンパウロのリベルダーヂ東洋街の本屋さんは、マンガファンにとってメッカでした。そのほか、日本のビデオレンタルショップもあり、アニメも沢山そろっていました。ブラジルのテレビでも、「アルプスの少女ハイジ」や「リボンの騎士」が、ポルトガル語吹き替えで、放映されていたのが、少年時代の記憶として強烈に残っています。

2010年のワールドカップで南アフリカを訪れ、日本×パラグアイ戦を観戦したときのこと、各国からのサポーターの多くは日本を応援していたのですが、その理由を聞いてみると、みんな口を揃えてマンガ、アニメで日本ファンになったからだと言っていました。日本のポップカルチャーの、世界レベルの影響力を肌で感じました。

アンジェロ・イシ 1967年、サンパウロ市生まれ。サンパウロ大学ジャーナリズム学科卒。90年、日本に留学、新潟大学大学院および東京大学大学院を経て、ポルトガル語新聞の編集長を3年間務める。日本とブラジルの移民やメディアを研究する傍ら、ジャーナリストとしても活動。2004年より武蔵大学専任講師、2010年より現職。

海外移住資料館へようこそ！

ララ物資に貢献した浅野七之助さんの姪 鈴木雅子さんが来館

戦後、生活必需品が不足する日本に届いた支援物資（ララ物資）の送り出し機関「日本難民救済会」発足の中心的存在だった浅野七之助さんの姪で、横浜市内在住の鈴木雅子さん（89）が8月19日に来館しました。

鈴木さんは浅野七之助さんとの思い出について「浅野さんが日本に来たとき、よく収容所での辛い経験を話してくれました。収容されて大変だった時に、日本からしょう油やミンが届いて感激したそうです。だからこそ、戦後、日本が大変な時に役に立ちたいと強く思ったようです」と語ってくれました。

＊『海外移住資料館だより』No.35で、ララ物資について紹介しています。バックナンバーは海外移住資料館HPに掲載しています。



浅野七之助さんの思い出を語る鈴木さん

｜特別展示｜「マンガ! Manga! Mangá! —日系人とマンガの世界—」関連イベント

日系社会シニア・ボランティアが見たアマゾンと日系社会

アマゾン写真展とマンガでわかる移民の話

まんが作成 鶴田俊美

(元JICA日系社会シニア・ボランティア2010年～2013年派遣)

2014年12月2日(火)～2015年1月11日(日)

JICA横浜1階 展示スペース



TOPICS

海外移住資料館や
海外移住にまつわる
さまざまな情報をお
届けするコーナーです。



TOPIC 1

第55回海外日系人大会開催 皇太子殿下が「ララ展」パネルを ご覧に

世界各地の日系人が集う第55回海外日系人大大会が10月22日から24日まで東京で開催され、23の国、地域から140人の日系人が参加しました。初日に行われた歓迎交流会には皇太子殿下がご出席されました。会場ロビーでは、当資料館で開催された特別展示「ララってなあに？日本を助けたおくりもの」(8月2日～10月26日開催)から12枚のパネルを展示。殿下もご覧になりました。



海外日系人大大会の会場に展示されたララ展の様子(憲政記念館にて)

TOPIC 2

今年も大人気だった 第7回宝島ハロウィンを開催!

子どもたちに大人気のハロウィン・イベント「第7回宝島ハロウィン」が、10月26日に開催され、533人の子どもたちが自慢の衣装で来館してくれました。資料館ボランティアのみなさんも、手作りの衣装でドラキュラや魔法使いに仮装して子どもたちを迎え、ハロウィンならではの楽しい一日となりました。



お菓子をもらって大喜びの子どもたち

TOPIC 3

よこはま国際フェスタに参加しました!

10月18、19両日、横浜市中区の象の鼻パークで「よこはま国際フェスタ2014」が行われ46,000人が来場しました。今年は当資料館もブースを出展し、海外移住の歴史や資料館紹介パネルを展示、ブース前ではブラジルコーヒーの試飲会も行われました。また、日系移民に関する資料館オリジナルの紙芝居を自転車紙芝居で上演し、集まった子どもたちは楽しそうにお話を聞いていました。



紙芝居「海を渡った日本人」を上演

2014年10月16日 **バンクーバー新報**
Vancouver Shinpo Japanese Weekly Newspaper

少年野球『新朝日』誕生 記念試合に朝日軍OBケイ上西さん

映画「バンクーバーの朝日」が大きな話題となっているバンクーバーで、この
度、日系少年で構成された野球チーム『新朝日』が誕生しました。記念試合に
は、「バンクーバー朝日」でプレーしていたケイ上西さんが駆けつけ、「新朝日」
の選手を激励しました。その様子をバンクーバー新報（本社：カナダ・バンクー
バー）が伝えています。

バンクーバー新報の紙面より

映画『バンクーバーの朝日』の話題でつきない日系コミュニティで、このたび13歳から15歳の
日系少年で構成された野球チーム『新朝日』が誕生した。急募にもかかわらず約30人の日系少
年が志願。その中から13人が今回メンバーとして選出された。

10月11日にはカナダ日系少年野球クラブ（Canadian Nikkei Youth Baseball Club）主催によ
り、バーナビーのロバート・バーナビー・パークで伝説の野球チーム『朝日軍』を称える記念試合
が開催され『新朝日』が『第6区セインツ』と対戦。朝日軍OBのケイ上西さん（92）もカムループ
スからかけつけた。早朝の大雨から一転。昼過ぎには晴れ間がのぞいたフィールドでは、Asahi
と書かれた赤と白のユニフォームの少年たちに、日系博物館元学芸員のグレース・エイコ・トム
ソンさんが、戦前の朝日軍の頭脳プレーとスポーツマンシップについて解説した。（中略）

結果は13対11で『新朝日』が逆転勝ち。上西さんは「チームのみんなが助け合い団結してい
くことが大切。私も皆さんの年に戻って、またプレーしたいですね」と目を細めた。



World NIKKEI Newsは、
資料館友の会のメーリングマガジンでも配信中です！

*友の会メーリングマガジンへの登録申し込み詳細は、資料館
ウェブサイトをご覧ください。

海外移住資料館 検索 

海外移住資料館周辺マップ



- 開館時間 10:00～18:00(入館は17:30まで)
- 休館日 月曜日(月曜日が祝祭日の場合は翌日)、
年末年始(12月29日～1月3日)
- 入館料 無料

イベントスケジュール

公開講座シリーズ「日本人と海外移住」(全12回)

本年4月から来年12月にかけて、当資料館と日本移民学会の共同開催で公開
講座シリーズ「日本人と海外移住」(全12回)を実施しています。

- 第5回 「ブラジルへの移民」(三田千代子元上智大学教授)
12月27日(土) 13時～14時30分
- 第6回 「中南米への移民」(石川友紀琉球大学名誉教授)
2月28日(土) 13時～14時30分

☆各回講座の概要およびレジメは当資料館HPに掲載しています。

表紙：日本で出版されている日系人に関するマンガや、日系人によるマンガ、移民史に関す
るマンガ、日本語を学習するためのマンガなど、海外で出版されたマンガいろいろ。

アクセス

みなとみらい線

「馬車道」駅(4番出口)から徒歩約8分
「みなとみらい」駅(クイーンズスクエア方面改札)から徒歩約15分

JR線・市営地下鉄

「桜木町」駅から(汽車道→ワールドポーターズ→サークルウォーク)
徒歩約15分